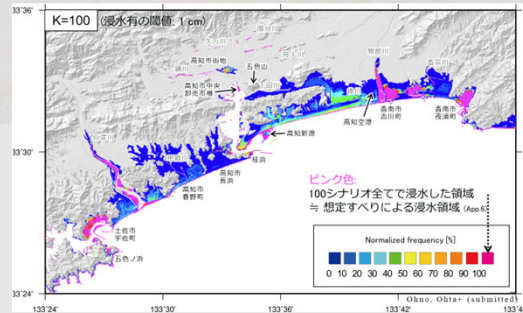
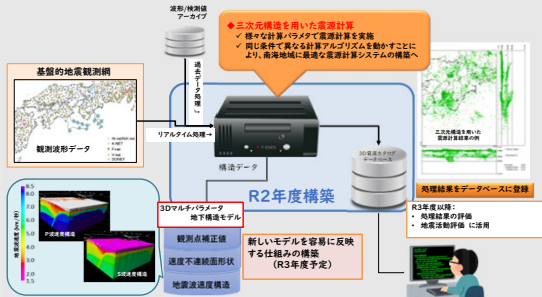


サブ課題Ⅰ 地殻活動情報創成研究

固着・すべり分布の即時決定
リアルタイム津波浸水危険度マップ

- ◆ 南海トラフ想定震源域周辺で発生する地震の震源に関する情報を高精度かつ即時的に得るため、3D構造モデルを用いた震源計算を自動的に実施できるシステムを構築した
- ◆ 同じ日本列島で過去約20年にわたる基盤観測網の観測データを再解析し、長期震源カタログを整備することが可能



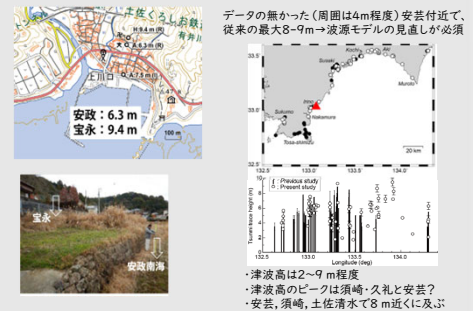
■各地域の最大浸水領域の包絡線かつ津波到達確率を1枚の地図として示すことが可能

■「MCMCサンプルのクラスタリング」により断層モデルの推定不確実性を最大限活用

◆安政南海地震による高知県における津波痕跡高評価

- 古文書に示された津波が到達した場所を特定、特定した地点の高度を実測
- これにより、土佐湾沿岸に沿って均一な分布で痕跡位置が評価できた

『大塩筆記』
安政南海地震“塩は蔵より二段下の田(T.P. 6.3 m)まで上がった”
宝永地震“蔵の下の道(T.P. 9.4 m)まで上がったと伝えられ…”
『谷陵記』では“半亡所潮は山まで家は山上にある故中半残る”



今井・他(2021, 歴史地震研究会)

サブ課題2 地震防災情報創成研究

臨時情報発表時の人々の行動意思決定に資する
情報の提供



成果1
事前避難の要否診断プロジェクト
全体構想の確定

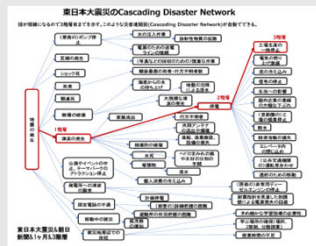
事前避難の要不要の診断
ツールのプロトタイプ作成



成果3 「逃げトレ」のユーザインター

発災時の大都市機能の維持

文章から機械的に因果関係を抜き出して、災害連関図を作成する方法論を構築し、類似度によって因果関係の連鎖を抽出



発災時の企業の事業活動停止を防ぐ

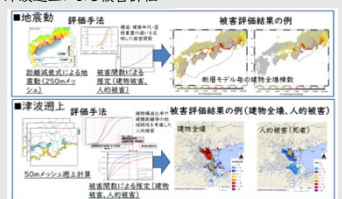
動的な被害予測手法開発

災害時の社会状況(地域リソース)リアルタイム
把握のためのプラットフォーム開発



地震防災基盤シミュレータの構築

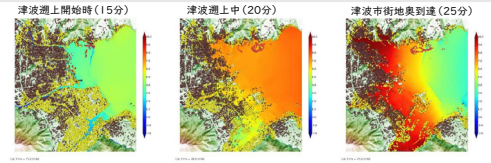
地震動・津波遡上による被害評価



サブ課題3 創成情報発信研究

地域防災上の課題評価

津波がれき評価 -A市の例-



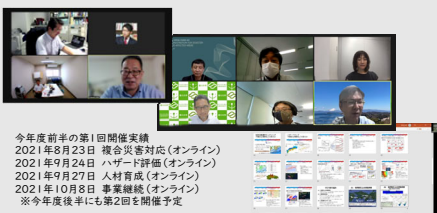
内閣府モデルケース6を使用した瓦礫発生量と集積地評価
(茶:建物、黄:車両、赤:船舶)

河川に沿って建物倒壊エリアが
幹線道路を超えて瓦礫が到達

→ 市内の建物情報を得て
互換計算の高度化へ

情報発信検討

1. 防災の特性に応じた情報発信検討会を企画
 - 1. ハザード評価 (JAMSTEC 今井さん)
 - 2. 複合災害対応 (香山次 金田さん)
 - 3. 事業継続 (NIED 中村さん)
 - 4. 人材育成 (徳島大 馬場さん)
 2. 地域に特化した議論が必要であれば分科会を開催
 3. 招待するメンバー (静岡県から宮崎県まで)
 - 1. プロジェクト側研究者
 - 2. 自治体
 - 3. 各県の防災を支える拠点大学
 - 4. インフラ事業者
 - 5. 国の機関 (気象台、地方整備局)
 - 6. 地域経済、地域防災を支える民間企業
 4. 各テーマともそれぞれ2回2回の開催
- 地域の防災特性に応じた開催場所以を选定
地域の中でのアクション・サーチとの組み合わせを念頭



災害情報リテラシー向上

目的:理学・工学の情報の利活用を進めるとともに、基礎的な知識と判断力と行動力をもつ地域防災を支える人材を育成する。

対象：中学校・高校・大学の学生、地域防災を支える人たち（学校の先生、小売業、運輸、社会福祉協議会…）

- ポイント**
 - ・被災のイメージを具体的に持つこと
 - ・地域に入り込むアクションリサーチ型との併用
(津波履歴や文化など地域情報共有の強化)
- 必要な要素**
 - ・経験：災害メカニズム、地域性、災害史、軽減、災害時対応
 - ・経歴：災害要因：被災、ボランティア、統率力、活用力、コミュニケーション能力
 - ・備え：平時備え、避難行動力、コミュニケーション
 - ・行動：自己効力感、避難、訓練
 - ・未来志向：将来構想、グローバル思考、地域愛
 - ・情報リテラシー：情報取得手段
 - ・臨時情報
 - ・南海：ラフ地震の判断：知識と経験を組み合わせ、被災イメージ、適切な避難行動
 - ・社会福祉協議会を念頭

防災学習とアンケート調査を併せて実施して、効果的なリテラシー向上と防災学習の評価を行う。

検討中のアンケート項目の一例

- 耐震基準は、家を守るためではなく、命を守るためにある。
- 津波の流速が変わるメカニズムを理解している。
- 私1の地域の周辺に津波が来た場合、流速が上がる場所を知っている。
- 地震が起きたとき、多くの建物が倒れる恐れのある地区がどこか知っている。
- 私の住んでいる市区町村の防災の計画には何が書かれているか知っている。
- ハザードマップをもとに、災害時にどこが危険な場所か言える。
- 地震・津波が洪水などの災害について十分な知識を持っている。